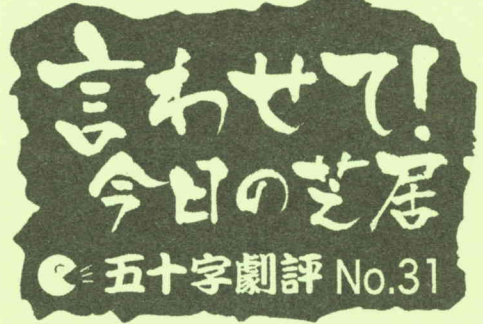


文学座

# 再びこの地を踏まず



## 【五〇代】

▼遊興や酒に溺れ、研究に没頭するのは母の呪縛から離れんがためだと納得いつたが、それをセリフで「重荷」と説明してしまうのがなんとも残念。(女性)

▼子供の時に読んだ、偉人伝とは真逆の野口像でした。でも人に恵まれ、好きに生きた野口は幸せと思います。(女性)

(女性)

▼いい人たちと野口英世のエピソード満載の前半はいとしても、後半はもっと作り様があったのでは……なんとなくいい人で終わり、正直つまらなかった。(女性)

## 【六〇代】

▼幼少の時は野口英世の伝記を読み偉人として有名でしたが、舞台を見て英世の裏側を見て、また人間性を感じました。

▼マキノノゾミの脚本が良かった。偉人と言われる人は、良い点でも悪い点でも凡人とは突出している。野口英世の妻が米国人とは知らなかった。後半はお互いを思いやる夫婦愛を見た。(男性)

(男性)

▼ノーベル賞をもらった人と小学校の時教わったのに、青年時代の金と女性に対する様々な行動にはビックリ仰天。でも研究に熱意をもつ

ていたことに言う事なし。(女性)

(女性)

▼今年一番の芝居といえる程の出来だと思いましたが(まだ例会は残っています)が、ひさしぶりででしたこの感じ!

▼物差しが違うと人物像もこうも変わるのか。今の時代では頭の良い変な人とみられる。しばいはおもしろいな。

▼聖人君子のイメージだったので、意外でした。でも楽しめました。波乱の人生でしたが、日本でなくて良かったのかなくと思いましたが。(女性)

(女性)

▼お金に無頓着な英世が自分の周りにいたら非常に迷惑だなあ:と、今井さんの素晴らしい演技を観ながら感じていた。後半は研究者としての英世が観られて、あれがなければ救いようの

ないダメ男で終わってしまった。胸をなでおろした。(女性)

(女性)

▼野口英世の驚きの私生活、笑えるくらいイメージが違い本当こんな生活をしていたのかと疑問を感じながら、舞台にくぎづけになりました。(女性)

(女性)

▼ツイてる男。次々の出資者。才能と努力。期待と実績。五一歳の生涯。母に甘え抱きしめられたかっただけでは。(女性)

(女性)

▼なぜ周りの人が良くも悪くも英世に魅せられ、応援したのか。彼のキョーレツな人間性が良く分かる演出でした。(女性)

(女性)

▼野口英世もまた人間であつたということになぜかホツとした。品行方正とはいえない私生活。「世間の常識」では非難されても褒められはしないのだろう。しかし、

それで偉人としての野口英世がすべて否定されるのだろうか。現象面だけですべてを判断してはいけないと思う。心の機微まで推し量ることは難しいのだから。野口英世はそれでも偉人なのである。

(男性)

▼この芝居を観る限りでは、野口英世という人物にあまり好感が持てないし、また彼を見習おうとも思わない。あのとてつもない酒好き、浪費家、借金魔という人物像は常軌を逸する。決して真似しないで下さいというような人物だ。しかし、野口自身を突き動かすものが、野心・功名心から「人を助ける」という無私・無欲なものへと次第に変わっていき、彼の心の変貌ぶりはこの作品の見所だと思ふ。特に第二幕の彼と妻とのやりとりには、彼の心

の変貌ぶりと彼の人生の中では最も心穏やかであったであろう様子が見て取れて、とても好感が持てた。マキノノゾミの脚本は、異説としての描き方・切り口が良かった。野口を演じる今井朋彦の達者な演技も凄いと思う。

(男性)

▼九月六日の大地震、ブラックアウトより一日後、気分が滅入っていて、何をやっていても心が晴れなかった私にとつて、当舞台は、人間野口英世を深く掘り下げ、前半は医学の勉強に励みつつも、放蕩三昧で、支援者に多大な迷惑をかけたつも、本音で生きる若き日をユーモラスに描き、後半はニューヨークの酒場で、後の妻となるメイジーとの出逢い、ロックフェラー研究所にて細菌学者として世界的名声を得つつも、アフリカのガー

ナにて黄熱病と格闘し志なかばで病に倒れ、五一年の生涯を終える。彼の人生を見ていくと、徐々に人間が成長してゆき、受けた恩を返して往く。文学座の当舞台は、いまの世だからこそ大切なことに気づかせてくれました。「志を得ざれば再びこの地を踏まず」と柱に刻み、故郷会津の地を二〇歳で後にして上京した彼の志は、命を懸けた尊いものだったと私は思います。

(男性)

▼今度は人のためにと決めた野口とそれを受け入れた妻の自己犠牲、特に妻のそれは切なく悲しいけれど、きつと世の平安を生む一粒の種になるだろうと、ぼくは思った。

(男性)

【七〇代】

▼野口英世知ってたと思っただけどこんなにお金にルー

ズだったとは！芝居で知り、楽しい芝居でした。

▼子供の時読んだ伝記と大違い。野口英世はすごい天才だった。芝居のおもしろさが十分味わえた2時間40分。

(女性)

▼やっぱりいいことをしっかりやっているな。杉村春子がちらちらしました。野口英世がなぜお札の顔なのか。

(女性)





▼人間味のある偉人を、今井朋彦が歯ぎれ良く表現している舞台に、大きな拍手を!! 11月例会が増々待ち遠しい9月例会でした。(女性)  
▼中学の時に読んだ野口英世伝記。こんな破天荒な人とは! 強くても優しい妻ダージスに救われたのでしよう。(女性)

▼人の出世というものは色々、失敗やら損をしたり、人のお世話に成ったり、人にめいわくをしたりして大きくなって行くものだという事を考えさせられました。

▼児童向け偉人伝で尊敬していた野口英世の実像を初めて知った。このお札が将来ハイパーインフレの象徴になるかも、とゾツとした。(女性)

▼野口英世の、腹立たしくなるほどの凶々しさといひ加減さが、秀才だった彼の生きて行くスタイルだったのかと思えました。命の危険もかえりみず西アフリカに旅立つ姿に感動しました。(女性)

▼役者の皆さんが、それぞれの役にびったりはまっていて違和感なく入り込めました。衣装も時代に合っ

いて良かった。芝居らしい芝居を楽しめました。

【八〇代】

▼知らない野口英世でした。側面からだとは何と型破りな飛び抜けた才能は多くの人達の借金してまでも育てようと思わせた彼がいました。感動!(女性)

編集スタッフから

今日の芝居いかがでしたか。観終わつた後の拍手が、熱く連帯して続いた時など、市民劇場で観劇していることに感動します。そして五〇字劇評で感想を読んでもなるほどと感動します。ぜひお気軽にどうぞ投稿お願いします。次回一人でも投稿者が増えますように!

50字劇評「言わせて! 今日の芝居」に投稿を!

ここは、会員が「芝居を自由に語る場」です。率直な感想をお寄せください。

署名 “不登” です。「男」・「～歳代」は記入をお願いいたします!

字数 “50字” を目安として、思いの丈をお寄せください。

締切 2018年12月28日(金)